

## 「2023年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学文学部1年 大形 和佳那

## ①学習成果

今回私が普通話を勉強しに行った留学先が、広東語を話す香港であることに対して「日常生活の場面で普通話を練習できないのではないかと、自ら中国語を発する機会の少なさを心配していたが、実際現地では毎日5時間集中して内陸人の先生を通して中国語に触れることができたため、大学の外で使う機会が少なくても満足に練習できた。以前は大学の授業と、ラジオなどとインプットばかりだったが、今回開催された2種類の授業両方ともアウトプットできることが多く、それまでの知識を能動的な形で発することができて、使える中国語が増えていくのを実感して嬉しかった。

## ②海外での経験

私は最初、広東語圏で普通話を勉強することに少し疑問を持っていたが、行ってみると語学以上に得られるものが多かった。例えば、意図的かどうか分からないけど、普通話を喋るけど敢えて使わない人がいたりして、最近の政治状況もあって、現地の雰囲気とか彼らの考えや姿勢を多少垣間見ることができてよかった。普通話をこうして別の文化圏から学ぶのも色々な発見につながっていい経験になったと思う。

もう一つ挙げたいのは、香港で出会った人々の優しさ、温かさである。広東語しか通じないご飯屋で英語を使って助けてくれた上、オススメの品を分けてくれたおじさん、最後のプリンをおすそ分けしてくれたおじいさん、助けられる度に日本人と違う積極さに驚かされた。香港に限った話ではないが、海外に行って初めて得られる日本文化についての新しい気づきというものがある。あっちの人々と交流して自国との差異に気がつくことで、改めて日本を学ぶ良い機会となった。

## ③プログラム内容

今回のプログラムは4つのレベルに分けられていて、朝の読む・書く授業と午後の聞く・話す授業がある。そして最初の3日間はクラス調節期間で、振り分けられたのと違うクラスに行くことができ、その時点で自分に適するレベルで勉強できる。私は最初一番下のクラスに振り分けられたが、香港に行った時には上から2番目のクラスに参加することを許されていて、それもあって中国語の伸びが大きくなったと思う。授業は簡単な中国語で説明してくれて、時折英語で補う感じで行われた。他には京大生の団体と中文大学の歴史学科の学生の間でプレゼン発表があり、現地学生と交流できて有意義な時間を過ごせた。

## ④進路への影響

留学による今後の進路への大きな影響は特にはないが、これをきっかけに中国語を真面目に習得しようと考えている。中国語を話せることで選択肢が増えるのはもちろん、今回出会った様々な人からの刺激も受けて興味分野が広がったという意味でも、将来の可能性が広がられているので、この経験が私の今からの人生でどう生きていくかが楽しみである。